21 世紀における中国の大学生流行語とその精神構造

孫　樹林

はじめに

中国は、改革・開放によって、目まぐるしい変貌を遂げ続け、古い文化が多々棄却されると共に、種種雑多な新しい文化が誕生してきた。その中で、新文化の一端を担っている流行語は、その誕生、更新するテンポが速いのみならず、その量も厖大であり、波及範囲もほぼ中国文化の全域に及んでいる。こういった史上未曾有の流行語の隆盛はもはや言語学の範疇を超え、激変する時代の社会文化の一表象として軽視できないものとなっている。

しかし、中国では、改革･開放政策を実施して以来、いったいどれほどの流行語が誕生し、その流布がいかなる範囲で行われてきたのかについては、現段階では把握しがたく、緻密な調査と更なる考究を待たねばならない。もし、この時代における流行語の全貌を解明しようとすれば、その一時期、一断面、一特定の集団についての個別考察から始めなければならず、これは全貌解明の基礎作業であり、必須不可欠のステップでもある。

周知のとおり、変革時代における中国社会の諸集団の中で、大学生の集団はきわめて鮮明な個性を持ちつつ独自の文化を創っている。大学生の諸文化の中で、流行語が大学生文化をもっとも代表しうる典型的なものの一つと思われる。他の集団のものと同様に、大学生の流行語も言語学上の独自の個性を持つのみならず、その中に大学生独特な時代感覚、価値観、世界観なども内包されている。したがって、中国の大学生流行語についての考察は、大学生という集団の言語文化、時代感覚、価値観などを認識する一助になるのみならず、同時代の社会や文化の本質に迫ることもできるのである。

しかし、中国の大学生流行語に関する先行研究では、一般的に大まかな紹介と簡易な評論にとどまり、社会言語学的視点によるまともな考察はほとんど見られない。特に大学生流行語における内容と表現形式との関係についての言及は未だないようである。そこで、本稿は、21 世紀に入ってからの 10 年間に、中国の大学構内及び大学生のネットワークにおいて創造、伝播されている最も代表的な学生流行語に焦点を当て、そのあり方およびその形式と内容との関係について考察し、その中に潜んでいる大学生の精神構造を探ってみたい。

Ⅰ、21 世紀における中国の大学生流行語

改革・開放によって流行語の隆盛をもたらした中国では、流行語に対する関心と研究は、社会一般の流行語によるものではなく､大学生流行語から始まった。1993 年､雑誌『大学生』は大学生を対象に「大学生評選大衆十大流行語」[(1)] 選出活動が行われた。これは中国史上初の流行語選出活動であるだけに、大学生から関心を寄せられ、社会一般からも多く注目されていた。この活動をきっかけに、流行語に対する関心が次第に高まり、流行語の創作と伝播もより一層盛んになっていった。

21 世紀に入り、中国の変貌が加速している中、学生流行語も社会一般の流行語と同様にますます盛んになり、次第に独自な体系を成していった。そこで、中国共青団中央委員会の機関紙『中国青年報』は 9 年ぶりに「2001 年中国青年十大流行語」選出活動 (2) を行った。しかし、今回も前回と同じように、選択肢として指定された流行語がすべて大学生の集団内の流行語ではなく、社会全般のものであったし、かつ国営メディアによるアンケートであっただけに、その選定において、主観性が働かなかったとは思われない。したがって、上記のような流行語は、21 世紀の学生流行語ではなく、高々その傍流でしかないと言えよう。

それでは、学生の流行語とは何か。概略的に言えば、それは主に大学構内及び学生のネットワーク（ネット掲示板の書き込み、文通、電話、メール、会話など）において創造、使用されるものであり、その使用者が大抵大学生という特定の集団に限られるものである。

改革・開放以来の 30 余年間に、大量の学生流行語が誕生してきたが、以下は、21 世紀に入って以来、大学構内で最も流行っている学生流行語 (3) に限って、その状況について考察する。2001 年 4 月に行われた調査(4)によると、当時もっとも流行っていた学生の流行語は、以下のとおりである。

「真酷」「酷毙了」「去死吧」「我去」「哇噻」「恶心」「也不行」「帅呆了」「白痴」「上网去」「变态」「有没有搞错」

考察の便宜上、以下ではこれらの流行語を「原語」「日本語訳」「分類」に分け、そしてその文化的性質によってそれぞれ「A ＝愛」「F ＝不正行為」「G ＝娯楽志向」「L ＝流行」「R ＝理想」「S ＝審美観」「X ＝心情」「Y ＝ユーモア感覚」「W ＝悪口･軽蔑･風刺」に分類する。

＜表 1 ＞（2001 年頃の最流行の学生流行語）

原語	日本語訳	分類
真酷	クールだ、かっこいい	S
酷毙了	超かっこいい、超クールだ	S
去死吧	死ね	W
我去	俺が行く（馬鹿野郎）	W
哇噻	わぁ、すごーい	Y
恶心	吐き気をする、吐き気を催す	X
也不行	まだいけない、ついていない	X
帅呆了	超ハンサム	S
白痴	阿呆	W
上网去	インターネットをしに行く	L
变态	変な、変態	W
有没有搞错	間違えたのではないか	Y

以上の大学生流行語は、現在も使用されているが、もはやピークを越え、その勢いを失いつつある。その後、それらに代わって、以下の流行語が相次いで登場し活躍してきている。下記の＜表２＞～＜表６＞において、その使用法によりいくつかのジャンルに分けて考察する。

＜表２＞（同音異義型の流行語）

原語	日本語訳	分類
早恋（早炼）	早い恋愛（朝に体を鍛える）	Y
黄昏恋（黄昏炼）	年寄の恋愛（夕方に体を鍛える）	Y
大喜之日（大洗之日）	大吉の日（衣服を多く洗濯する日）	Y
茶堡（Trouble）	喫茶店（ややこしい）	Y
研究生（烟酒生）	大学院生（ヘビスモーカーと飲兵衛の学生）	Y
奋发图强（粉发涂强）	奮い立って富強を図る（化粧をする）	Y
动物（冻物）	動物（物を凍らせるほどいやだ）	Y
名古屋（鸣鼓屋）	名古屋（他人のうまい汁を吸うやつ）	Y

上記の＜同音異義型＞を有しつつより複雑な構成をもっているのは、以下の＜同音＋拡大・意味転移型の流行語＞[(5)]である。

＜表３＞（同音＋拡大・意味転移型の流行語）

原語	日本語訳	分類
偶像（呕吐的对象）	アイドル（吐き気を催す嫌いなやつ）	W
天才（天生的蠢才）	天才（生まれつきの阿呆）	W
超生（抄袭学生）	計画を超えた出産（他人の答案を引き写す学生）	W
精英（精神的苍蝇）	エリート（神経質の蝿）	W
神童（神经质儿童）	神童（神経質の児童）	W
寄托（GRE・TOEFL）	寄託する（「GRE」と「TOEFL」）	R
蛋白质（笨蛋/白痴/神经质）	蛋白質（間抜け・白痴・神経質）	W

学生流行語の中、記号化したものもあり、下記の＜ローマ字型＞と＜数字型＞がその最も代表的なものである。下記以外に、様々な記号を用いる流行語もあるが、その使用が一部の学生の間に限られ、普遍性を欠くものであると考え、ここで考察対象外とする。

＜表４＞（ローマ字型の流行語）

原語	日本語訳	分類
Ｅ（一）	一	Y
ＰＭＰ（拍马屁）	おべっかを言う	Y
ＩＮ	定刻に	Y
ＨＯＴ	超辛い	Y
ＭＭ（美眉）	女の子、彼女、美女	Y

＜表５＞（数字型の流行語）

原語	日本語訳	分類
584（我发誓）	おれ（わたし）は誓う	A
885（抱抱我）	抱いてくれ	A
530（我想你）	君を恋している	A
520（我爱你）	君を愛している	A
1314（一生一世）	一生、生涯	A

上記以外の表現形式をもっているものは＜派生義・比喩義型の流行語＞とする。これらはいずれも同音を持たない流行語である。次では、それらの諸状況を考察してみる。

＜表６＞（派生義・比喩義型の流行語）

原語	日本語訳	分類
286	286 パソコン（愚か者）	W
世界杯	ワールドカップ（トイレ）	Y
单细胞	単細胞（馬鹿者）	W
缺氧	酸欠（反応の鈍い愚か者）	W
很冷	冷たい（面白くない）	Y
很青	青い（目新しい）	Y
超级恐龙	スパー恐竜（反応が鈍いやつ）	W
猪头	豚の頭（愚かで嫌いなやつ）	W
化石	化石（感動する）	Y
美眉	美しい眉（美しい女の子）	Y
真经典	経典的な（すごく貧乏だ）	Y
孔雀	孔雀（相手にその気がないのに好かれていると勝手に思い込む人）	W
楼兰	楼蘭（夢路を辿る）	Y
日久生虫	日が立てば虫が産まれる（付き合いが長くなれば愛情が生まれる）	Y
七里八里	七里八里（うまい言い回しをしているばかりで詭弁を弄する）	Y
包头	包頭（蚊に刺されて腫れ物が多くできたこと）	Y

革命	革命（自習する）	Y
多音字	多音文字（環境や相手に応じて話や行動がうまく変っていく人）	W
疲軟	軟調（懐が寂しい）	Y
学习文件	公文書を学習する（マージャンをやる）	G
围炉	暖炉を取り囲む（集団で乱闘する）	F
钓鱼	魚釣り（男性が女性を手に入れること）	A
钓虾	海老釣り（女性が男性を手に入れること）	A
去甜蜜一下	楽しみに行く（デートに行く）	A
根号 2	√2（ちび）	W
撞墙	壁にぶつかる（一目ぼれする）	A
熊猫馆	パンダ小屋（女子学生寮）	W
柴可夫	チャイコフ（タクシー運転手）	Y
貝多芬	ベートーベン（ぶす）	W
半月談	『半月談』（インスタント恋愛）	A
金三角	ゴールデン三角（カンニング）	F
两座山	二つの山（追い出す）	Y

Ⅱ、学生流行語における表現形式と内容との関連性

周知のとおり、ある内容を的確に表現するためには、一般的にその内容にもっとも相応しい表現の形式が要求される。上記の大学生流行語においても、こういった表現形式と内容との関連性が存在している。

＜表１＞の「2001 年頃の最流行の学生流行語」は、全部で 12 個（「W」＝ 4、「S」＝ 3、「Y」＝ 2、「X」＝ 2、「L」＝ 1）、その中、「**我去（我去你妈的）**」の一語だけが「拡大型」であり、これを除けばいずれも＜表２＞～＜表６＞のような形式をもたない「普通形式」のものである。すなわち、＜表１＞の流行語では「**我去（→我去你妈的）**」を除けば、この「正常形式」と内容との間に＜表２＞～＜表６＞で見られるようなある必然的な関連性はほとんど存在しないのである。

＜表２＞の流行語は全部で８個、いずれも「Y」類のものである。それらは以下のような共通点と特徴がある。

①８個の流行語は、いずれも既存の言葉を用いてそれと同音の他の言葉に転移させることによってユーモアを生み出そうとした掛け言葉的なものであり、いわば＜同音異義型＞の流行語である。②８個の流行語は、虐めや軽蔑のような要素がほぼ含まれないし、諧謔味があっても決して低俗的なものではない、いわば中性的な表現である。③それらの内容はいずれも「Y」類のものであり、諧謔やユーモアを趣旨に創ったり使われたりするものである。

以上の三点からすれば、学生はユーモア感覚を生み出すために同音で異議を表すという表現形式を用いたのであり、すなわち「同音異義」という形式は「ユーモア感覚」という

内容を表現するための最も適切な形式の一つであることが分かる。

＜表３＞の７個の流行語の中､「W」＝6､「Ｒ」＝1。それらは以下の共通点と特徴がある。

①７個の流行語はいずれも既存の単語を基礎に、その同音を用いつつそれぞれの文字の意味を拡大・変えることによって新しい意味を付与したものである。つまり、＜表３＞の「同音＋拡大・意味転移型の流行語」という表現形式は、＜表２＞の「同音異義」の上にさらに意味を拡大したり新しい意味を付与したりするものであり、＜表２＞の流行語の創り方より複雑な構成となっている。②７個の流行語の中、学生の理想志向を表している「R」類の「寄托」を除けば、残りの６個はいずれも悪口・軽蔑・風刺などの「W」類のものである。

したがって､悪口･軽蔑･風刺などの類の内容を表すためには､この｢同音＋拡大･意味転移｣という表現形式がより適切であることが明らかである。

＜表４＞の「ローマ字型の流行語」は全部で５個、「Y」＝5。それらは、以下のような共通点と特徴がある。

①「ＩＮ」と「ＨＯＴ」は英語の原義をそのまま使用、あるいは意味を少し変えたものである。②それら以外の「Ｅ」(一)、「ＰＭＰ（拍馬屁)、「MM」(美眉）はいずれもそれらのローマ字の発音と同音（あるいは近い）の中国語の代用とされた、いわば記号化したものである。③＜表４＞の５個の流行語はいずれもユーモアと諧謔を趣旨に創ったものである (｢ＰＭＰ｣は軽蔑の色彩が少しあっても｢W｣種類のものより｢Y｣種類のものに近い)。

したがって、ローマ字を媒介とした流行語が主にそれらの記号を通して一種のユーモア感覚を伝えようとしたものであることは明らかである。

＜表５＞の「数字型の流行語」は全部で５個、「A」＝5。それらは以下の共通性と特徴が見られる。

①これらはいずれも数字の音を借りて、それの同音あるいはそれに近い発音の他の言い方に変えたものである。②「584」と「1314」を含め[(6)] これらはいずれも愛をリアルに告白するものであり、すなわち、直接に愛を告白するのは面子が立たないので、婉曲的に意思を表明する媒介が必要とされるのである。

以上の状況からすれば、学生たちにとって、愛を告白するために最も適切な媒介は、最も簡単で使いやすいアラビア数字であることは分かる。

＜表６＞の流行語は全部で32個、その中､「Ｙ」＝14､「W」＝9､「Ａ」＝5､「Ｆ」＝2､「Ｇ」＝1、それらの共通点と特徴を次にまとめてみる。

①これらの流行語は＜表2＞と＜表3＞のような｢同音｣をもたず､いずれも既存の単語(言い方）の意味に基づきつつその特性を強調したり新しい意味を付与したりすることによって､独特な効果を醸し出そうとしたものである。②その内容構成は「Ｙ｣､｢W｣､｢Ａ｣､｢Ｆ｣､「Ｇ」など多種類に分けられるが、風刺・ユーモア・諧謔は依然としてその主軸である。③｢**学习文件**｣、｢**围炉**｣、｢**钓鱼**｣、｢**钓虾**｣、｢**去甜蜜一下**｣、｢**柴可夫**｣、｢**金三角**｣のような流行語は、同表の他の流行と同じく「派生義・比喩義型」のものであると同時に、通常隠語として特定な場所と特定な範囲内にのみ使われているものである。④「Ｙ」と「W」がその

重心でありつつ他種類のものも混じっており、総合的な内容構成となっている。

したがって、同音を持たない既存の単語にその意味を新しく派生・付与させるという手法も、中国の大学生の流行語創作に最も愛用されているものの一つであり、これは「Y」、「W」、「A」によく適用する一方、多種類の内容にも対応できることは明らかである。

以上考察した内容を要約して次の＜表７＞にまとめてみる。

＜表７＞（流行語の内容と形式との対応関係）

形式	数量	内容	最適内容	最適内容％
普通型	11	W（3） S（3） Y（2） X（2） L（1）	――――	――――
同音異義型	8	Y（8）	Y（8）	100
同音＋拡大・意味転移型	8	W（6） R（1）	W（6）	85
ローマ字型	5	Y（5）	Y（5）	100
数字型	5	A（5）	A（5）	100
派生義・比喩義型	32	Y（14）W（10） A（5） F（2） G（1）	Y（14）W（10） A（5）	90
計：6	計：69	計：9	計：3（53）	計：％ 76

＜表７＞で明らかになったように、21 世紀における中国の大学生流行語において、一定の内容を表現するには往々にして一定の形式が選ばれ、そういった形式と内容との間に緊密な関係を有するものは、全 69 個の中の 53 個であり、流行語全体の 76％も占めている。したがって、中国の大学生流行語において、表現形式（手法）と内容との間に一定の対応関係が存在していることは明らかである。

無論、大学生たちはこういった流行語の創作に当たって、必ずしも表現形式と内容との対応関係などを意識しつつ行ったとは考えられない。むしろ、学生たちは、内なる要望や感情をユーモア的に相手に伝えようとした際に、無意識的に「同音異義」や「意味転移」などの手法こそ自分の気持ちを伝えるのに最も適切な形式だと発見し、そして無意識的にそれをもってどんどん流行語の創作をしていったのであろうと考えられる。

Ⅲ、流行語から大学生の精神構造を観る

1、大学生の恋愛観について

大学生を対象とした、大学生の価値観についての関係調査 (7) によると、中国の大学生は次のような恋愛観をもっているという。

「恋愛の相手を選ぶ最も重要な条件」として「外見」を選んだのは 30.17％、「人柄」を選んだのは 15.52％、「才能」を選んだのは 12.07％である。また「結婚前の男女間の性行為」に賛成する者は 57.33％、「学校側は避妊道具や避妊薬を提供すべき」を賛成した者は 41.49％、「浮気は認められる」と回答した者は 31.19％、また「恋愛は夫婦が共に白髪になるま

で添い遂げるのを求めず、一時の所有を求めるだけだ」を賛成した者は41.58％を占めている。

そして、学生の日常生活や価値観を熟知している教員たちは、本調査において次のように学生を評価している。学生の恋愛を「人生の体験」と思う教員は34.48％、「空虚な生活を埋める」と思う教員は31.03％、また「流れに任せ、随意に行う」と思う教員は17.24％を占めている。

また、他の大学生の恋愛観関係のアンケート調査[8]によると、大学生は社会の「浮気現象」に対し、「反対しない」と答えたのは50％を上回り、「理解できる」と回答したのは21％、「他人が干渉すべきことではない」と回答した者は19％を占める。また、「女子大生が金持ちの社会人の愛人になる」ことに対し、これは「個人の問題で他人が指摘すべきではない」と回答したのは38％を占める。また、恋愛目的に関する調査では、「一生共に添い遂げるのを求めず、ただかつて愛情を手に入れたことがあるのを願うのみ」と選んだ学生は29％、そしてこういった恋愛観に対し「咎めるべきではない」と回答した学生は50％以上を上回る。

上記の調査研究では、得たアンケートデータを分析の上、次のような結論を得た。「愛情と恋愛観の多元化は今の大学生における現実的なお普遍的な問題となっており、今の大学生は愛情と恋愛観において、ますます開放的、自我中心的な姿勢を示し、恋愛観の多元化と情愛関係の多様化を呈している。大学生は純粋な愛情を求める一方、また婚姻の責任を背負う思想的な準備が欠けている。そのため、愛情の一時的な娯楽性、随意性が強まり、婚前の性行為（乃至浮気）に対し比較的に寛容な態度をとっているし、また一部の学生はそれを一種の流行とさえ見なしている。」[9]

それでは、こういった中国の大学生の恋愛観は、日ごろよく口にする流行語の中に如何に反映されているのであろうか。

恋愛関係の流行語の中で、「584」（おれは誓う）、「1314」（生涯）、「530」（君を恋する）、「520」（君を愛する）、「**撞墻**」（一目ぼれする）の5つの流行語がある。「584、1314、520」（おれは誓う、一生、おまえを愛する）、また「584、530」（おれは誓う、本当に君を恋している）、あるいは「584、**我撞墻了**」（おれは誓う、君に一目ぼれした）のように、二つ以上の流行語を繋げて使われるのが一般的である。これらはいずれも学生間で文通やネット上において愛を告白する際によく使われる決まり文句であり、いわばこれらは、いずれも愛の芽生え段階あるいは愛の精神的段階に使われるものなのである。

「**去甜蜜一下**」（楽しみに出かける）は、前のものに比べれば具体的であり、恋愛関係にある一般意味での男女交際から性行為にいたるまでのあらゆる内容に適用できるようである。しかし、一般的に言えば、これはより親密な関係（肉体的接触）にある恋愛の状態を言うものと思われる。

そして「**钓鱼**」（魚釣り）、「**钓虾**」（えび釣り）、「885」（私を抱いてくれ）、「**半月谈**」（インスタント恋愛）に表されている学生の恋愛形態は、上記のものに比べてかなり具体化してくる。つまり、男子学生は、餌を出して魚を釣る（**钓鱼**）ような心境で女子学生を手に

入れ、その代わりに女子学生は「**钓虾**」（愚かな男子学生がまるで海老のような格好で釣られてしまうこと）をもって対応していく。しかも、こういった恋愛は、往々にして「**半月談**」（インスタント恋愛）的なものである。

愛を表す 10 個の流行語は、次のような 4 つの次元に分けられる。

①精神的＝「584」「1314」「530」「520」「**撞墙**」
②娯楽的＝「**钓鱼**」「**钓虾**」
③肉体的＝「885」「**去甜蜜一下**」
④観念的＝「**半月谈**」

一般的に言えば、「584」、「1314」、「530」、「520」、「**撞墙**」は精神的ものであり、その中に伝統的な恋愛観も混じっていると言ってもよい。これに対し、行動段階における娯楽もの（「**钓鱼**」「**钓虾**」）と肉体もの（「885」「**去甜蜜一下**」）の流行語は、完全に物質的・現実的・現代的なものとなってしまう。そして「**半月談**」は正しく一部の学生の異性遊びを本位とした恋愛観の端的な表白と言えよう。もし、それらをつなげてみれば、次のような恋愛のプロセスになる。

「**撞墙**」→「520」（「530」「584」「1314」）→「**钓鱼**」（「**钓虾**」）→「**去甜蜜一下**」（「885」）→「**半月谈**」

つまり、一目ぼれしたことを愛の起点とし、愛の告白や愛を手に入れる行動を経て、肉体的な関係に至ったかと思うと、「半月談」で終わってしまうものである。

この恋愛の過程で明らかなように、芽生えた段階の愛は、伝統的な恋愛観も伴いつつも、いざ精神的境地を離れると、愛の高尚性が直に失われ、単なる娯楽に堕してしまう。結果論からすれば、この類の恋愛の目的は、娯楽的、肉体的、速成的、臨時的であると言ってもよいであろう。

上記の大学生恋愛観のアンケート調査をまとめてみると、次のような強い傾向が見られる。①恋人を選ぶ標準は人柄や能力より外見を重視（30.17％）。②婚前の性行為への肯定（57.33％）。③浮気への容認（31.19 ～ 50％）。④愛は一時的なもの（41.58 ～ 50％）。⑤女子大生の売春への認可と理解（38％）。

これに対し、学生流行語において、愛と関連性のある審美観の「Ｓ」に属する「**真酷**」、「**酷毙了**」、「**帅呆了**」の 3 点はいずれも外見を重視するものであり、「**钓鱼**」、「**钓虾**」、「**去甜蜜一下**」、「885」、「**半月谈**」のようなものは、愛関係の流行語全体の中で占めている比重・分量、またその文化的意味からすれば、アンケート調査の②～⑤に完全に還元できるのである。したがって、大学生流行語の中に潜んでいる恋愛観は、学生恋愛観の関係調査の結果とほぼ一致していることは明らかである。

2、大学生の道徳観について

前記のアンケート調査では、中国の大学生の道徳に関するデータも得られているが、ここで本文と関係のある部分だけを引いておく。

この調査の中で、「悪口を言う」という問いに対し、それは「道徳性が欠けている証拠だ」と思う学生は66％。これにひきかえ、「文明的な行為ではないが、たいしたことでもない」と思う者は21％となっている[10]。また、「今の大学生は道徳意識がとても薄い」と思う教員は61.21％を占めている[11]。

注意すべきことは、通常の倫理道徳観からすれば非モラル的な行為とされる「悪口を言う」ことに対し、本調査を受けた大学生の中で、「道徳性が欠けている」と思わない者は3分の1もある[12]ということである。この部分の学生にとって、悪口を言う（揶揄する、皮肉を言う、罵る）ことは道徳性が欠けている証拠ではない、あるいは道徳の問題ではない、道徳と無関係のいずれかとなるのであろう。こうした判断からすれば、3割ほどの大学生の是非判断が反伝統的のみならず、もはや狂っているといっても過言ではない。

今の中国の大学生はさまざまな問題を抱えている。その中、信仰危機と道徳危機がもっとも深刻な問題と思われ、教育界の最大な難題となっている。今の大学生に対する評価は、大抵次のようである。現実主義的で無責任、自己中心的で公徳意識が薄い、現代西洋文化の中の消極的な部分を多く受け入れる代わりに、東洋の伝統的な美徳から次第に離れていく、ということである。

大学生の道徳危機の一例として、社会に大反響を呼んだ「馬加爵事件」を挙げてみよう。これは雲南大学の学部生馬加爵（22歳）が同じ寮に住んでいた級友4人を殺害した事件。殺人の原因は他ではなく悪口をよく言われたからである。つまり、日頃一緒にトランプやマージャンをしていた級友たちからよく悪口（揶揄、皮肉）を言われ、自分の名誉と人格がはなはだ汚されたと思い、2004年2月13日～15日の間、ハンマで四人の級友を次々と殺害したのである。

この事件は、二つのポイントがある。一つは被害者の四人が田舎出身の馬加爵に対する言語暴力、もう一つはその言語暴力に対する残酷な復讐。言うまでもなく、四人も殺害した馬加爵の犯罪行為は如何にしても許すべきではない。一方、忍耐の限界を超えた4人の悪口は、当事者でなければその残酷性が想像すらできないものと考えられる。この惨事を検討するにあたって、結果の法律無視と共に、その原因となったモラルの欠乏にも大いに注目すべきとされている。すなわち、犯罪に至る前に、両方ともモラルをきちんと守ることができれば、こういった惨事は発生しえないはずである。

また皮肉なことに、この馬加爵が死刑判決を言い渡されて間もなく、馬加爵の同じ寮に住んでいたもう一人の級友何某も同年6月5日午前、児童を誘拐してお金を脅し取る疑いで送検された。むろん、こういった殺人や誘拐のような犯罪は中国大学生において、異例の個別ケースに過ぎない。しかし、このような事件を通して、今の中国の大学生における道徳堕落の普遍性と深刻さがクローズアップされ、注目されるようになる。

馬加爵が言われた悪口の詳細についてはなお不明であるが、それらは主に彼の出身、生活習慣、人格などに対する皮肉、悪口であったと、彼の供述で明らかになった。したがって、

前記の学生流行語が事件の当時にもはやかなり普及していたので、被害者の級友たちは日頃彼を皮肉していた言葉の中に、「W」種類の流行語（例えば「**白痴**」「**变态**」「**精英**」「**神童**」「**蛋白质**」「**偶像**」「**天才**」「**猪头**」「**去死吧**」）のようなものも入っていた可能性がきわめて高いと考えられる。もし、そうであったとすれば、これらの流行語の中に滲んでいるものは、すでに流行語の範疇を超え、倫理道徳や価値観や言語暴力などの領域にまたがることになるのである。

「W」類の流行語は以下のように３つの程度に分類できる。

①揶揄＝「**熊猫馆**」「**孔雀**」「286」「**单细胞**」「**缺氧**」「**多音字**」「**超生**」
②侮辱＝「**白痴**」「**变态**」「**猪头**」「**根号 2**」「**贝多芬**」「**偶像**」「**天才**」「**精英**」「**神童**」「**蛋白质**」
③悪罵＝「**去死吧**」「**我去**」

「W」類の流行語は、「皮肉」、「揶揄や人格の侮辱」、「悪罵」に分類できるが、しかし、実際のところ、一つの流行語は往々にして二つ以上の機能を兼ねているので、それらは分け難い混沌たる状態にあるのである。たとえば、「お前は、さすがに孔雀だ」といえば、皮肉・揶揄のものであるが、また人格の侮辱にもなる。場合によって悪罵することにもなるのである。

「W」類の流行語の中で、「去死吧」と「我去」だけが単刀直入的な悪罵のほか、残りはいずれもユーモアでお洒落な表現で言われるものである。しかし、一見ユーモアな揶揄に過ぎないこれらの流行語は、実際のところ、他人の人格を侮辱することを前提または目的とし、その動機と効果と結果は全く一致している。学生たちは教養人のプライドにより、単刀直入な表現を避け、それらを擬装させて、お互いに抵抗なくやり取りをしているが、しかし、流行語の中に潜んでいる暴力性はそれらの装飾によって減されるわけでもないし、普通の言語暴力と異なるわけでもない。しかも、使用者はこれらを十分了解した上で使っているものである。この言語使用の実態から見ても、彼らの倫理道徳観の衰退が裏付けられたであろう。

前にも触れたように、69 個流行語の中、「W」類のものは 20 個を占め、全体の 30％弱にのぼり、学生流行語の中核的な存在となっている。おまけに、こういった傾向は、本文で言及したものに限らず、学生流行語の全体に共通している現象なのである。

前述で調査を受けた大学生の３分の１は倫理道徳の価値判断が狂っているとしているが、むろん個別の調査で得た数値だけでは中国大学生の全体的な状況を判断することはできない。しかし、その数値は、学生流行語の中で「W」類の流行語が全体の３分の１を占めているという数値と完全に一致しているのである。これは、偶然というより、学生の倫理道徳観がこの両領域における投影、すなわち学生の道徳観の外面化した表象であると言わざるをえないのであろう。

まとめ

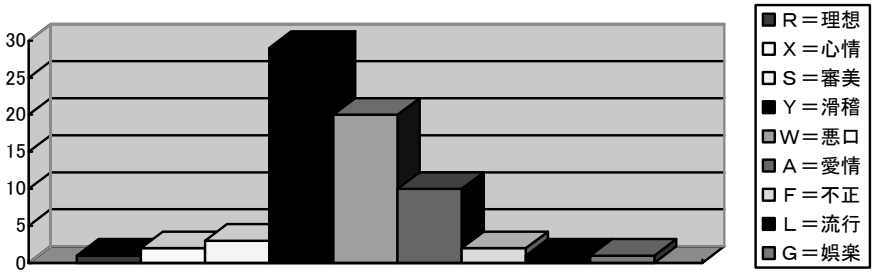
次に、流行語の内容構成と学生の精神構造との関係についてもう少しまとめてみたい。

前記の考察対象とした69個の流行語は、その内容構成により次の＜表８＞と＜図１＞を作ることができる。＜表８＞は､考察対象とした69個の流行語を「種類」､「数量」及び「％」に分け、数順に配列した。＜図１＞は、精神ものと物質ものを比較するために、流行語の種類を精神ものと物質ものに両分し、グラフの中央は実質的な文化内容をもたず表現装飾とされる「Ｙ」にし、左側は精神的（理想的･積極的）なものにし、右側は物質的（現実的･消極的）なものにした。

＜表８＞

種類	Y	W	A	S	X	**F**	G	L	R
総数	29	20	10	3	2	2	1	1	1
%	42	28	16.9	4.3	2.8	2.8	1.4	1.4	1.4

＜図１＞



Ｒ　Ｘ　Ｓ　Ｙ　Ｗ　Ａ　Ｆ　Ｌ　Ｇ

精神的 ←→ 物質的

理想的　　現実的

積極的　　消極的

＜表８＞で明らかなように､学生流行語は内容によって９種類に分類できる。その中､「Ｓ＝審美観」､「Ｘ＝心情」､「Ｆ＝不正行為」､「Ｇ＝娯楽志向」､「Ｌ＝流行」､「Ｒ＝理想」は、種類の60％以上も占めているものの、その数はわずか10個に過ぎず、全体の14.5％しか占めていない。それに対し、残りの「Ａ＝愛」､「Ｙ＝ユーモア感覚」､「Ｗ＝悪口・軽蔑・風刺」は３種類でしかないにもかかわらず、その数は59個もあり、全体の85.5％も占めている。この割合から分かるように、21世紀における中国の学生流行語の重心は、絶対多数を占めている「Ａ」､「Ｙ」､「Ｗ」種類の流行語にあるのである。

「Ａ」､「Ｙ」､「Ｗ」の中､「Ｙ」は究極のところ、実質的な文化内容を持っておらず、単なるユーモア感覚を生み出そうとするための一種の装飾的な表現、あるいはコミュニケー

ションにおける潤滑油でしかないので、「A」と「W」こそ21世紀における中国の学生流行語の重心であることは明らかである。

＜図１＞で示しているように、もし、実質的な文化内容をもたず単なる言葉の遊びとしての「Y」を考察の対象外とすれば、残りの流行語は40個となる。その中、左側の精神的（理想的･積極的）なものはわずか6個で、全体の15％を占め、右側の物質的（現実的･消極的）なものは、34個で全体の85％も占めている。精神ものと物質ものの比例は1:6.7となっている。

以上の諸点に基づき、以下のような学生の精神構造を窺うことができるであろう。

①「Y」の左側は、精神的ものと言っても、審美観を表す「**真酷**」「**酷毙了**」「**帅呆了**」以外に、心情の「**恶心**」「**也不行**」と理想の「**寄托**」の6個に過ぎず、文化学的視点から見れば、こういった内容構成はきわめて単純であり、まともな精神的な要素も欠けている。審美意識の単一性と低俗化、自信不足、理想の功利化、精神生活の狭隘と空虚などがその特徴と言えよう。無論、このような精神構造は、中国の知識人集団の思想史上においてきわめて異例な現象である。

②「Y」の右側の物質的なものは、実質的な内容を有しつつも娯楽の「**学习文件**」と流行の「**上网去**」を除けば、残りは「A＝愛」「W＝悪口」「F＝不正行為」の3種類だけとなる。前で考察したように、「A＝愛」の中に伝統的な恋愛観があってもその功利性に低俗化されてしまい、結局「W＝悪口」と「F＝不正行為」と同種類のものに堕落してしまう。したがって、「W＝悪口」が主軸となり、消極的な要素がその主導権を握っているその内容構成は、畸形・低俗・悪質化したものと言わざるを得ないのであろう。他の関係調査で裏付けられているように、この歪んだ構造は、単に流行語における一表象だけでなく、実は学生のアンバランスな精神構造の必然的な結果なのである。

③以上の考察で明らかなように、中国の学生流行語において、理想的・精神的・積極的なものは衰微し、現実的・物質的・消極的なものは勃興している。つまり、今は、精神的・理想的・積極的なものの代わりに、物質的・現実的・消極的なものがすでに学生の精神の中枢となっており、精神構造の全体をコントロールしているのである。それゆえ、道徳の堕落、理想の危機、精神の不安、存在の希薄といった症候群が現れてきたのである。

無論、こういった精神的空洞化に伴う「唯物主義」への一辺倒という精神構造は、単に学生の流行語やその生態圏でしか見られないものではなく、実は、今の中国社会全体の一風景であり、あるいはそれの屈折した反射に過ぎないのである。

注

1. 大学生たちに選出された「十大流行語」は、(1) 下海（商売を始める）(2) 申弁奥運（オリンピック主催権申請）(3) 発（もうかる）(4) 大哥大（携帯電話）(5) 第二職業（第二職業）(6) 電脳（パソコン）(7) 没商量（相談なし）(8) 説法（言い訳）(9) 発燒友

（マニア）（10）学雷鋒（雷鋒を学ぶ）である。その詳細は、拙文『中国「2003 年流行語」の文化的透析』（『中国研究月報』第 678 号、2004 年 8 月、中国研究所）に参照。

2. 中国共青団中央委員会の機関紙『中国青年報』2002 年 5 月 6 日の報道によると、この「2001 年中国青年十大流行語」は同紙の主催により、中国の 2000 人余の若者から協力を得て、インターネットを通じて選出されたという。その 10 語は、(1) 9･11（9･11 事件）(2) 本･拉登（ビンラディン）(3) 申奥成功（オリンピック主催権獲得）(4) 入世（世界貿易機構加盟）(5) WTO（世界貿易機構）(6) 翠花上酸菜（翠花ちゃん、酸菜を出してご馳走してやってくれ）(7) 出線（アジア・ライン突破）(8) QQ（メッセンジャー）(9) 反恐（反テロリズム）(10) Flash（フラッシュ）である。詳細は拙文『中国「2003 年流行語」の文化的透析』（注 1 に同）参照。
3. 本文で考察対象とした学生流行語は、いずれも 21 世紀以降の最も流行っているものと思われるものであり、中国の『中青在線』、『E 園資訊網』、『新浪網』、『南方網』、『大江網』、『東北新聞網』などの関係報道と統計を参考の上、選出したものである。その詳細は紙幅上省略する。
4. 『中国新聞網』2001 年 4 月 4 日の報道によると、語学の専門家は、中国吉林省の大学の大学生を対象に学生流行語のアンケート調査を行い、そして本調査で得られた流行語はその流行範囲が吉林省に限らず中国全土に共通するものという。
5. 本文における流行語の分類用語は、考察の便宜上、筆者が分類、命名したものであり、今後次第に補完し体系化させたい。
6. 「584」と「1314」はかならずしも「A」種類のものではないようであるが、実はこの 2 個も他の 3 個と一緒に異性への愛の告白に使われるのが普通なのであり、いわば同種のものである。
7. 『転換期における大学生の価値観及びその整備対策についての研究』（『東方網』2004 年 5 月 8 日）。本研究は、中国 37 校の 1 万人の大学生を対象に大学生の恋愛観と道徳観等に関するアンケート調査を行った。
8. 谷峰『河北省大学生の道徳素質現状調査』（『長城在線』2003 年 12 月 26 日）
9. 注 8 に同。
10. 注 8 に同。
11. 注 7 に同。
12. 「道徳性が欠けている証拠」と思う学生は 66％であったが、その他の学生（「文明的な行為ではないがたいしたことでもない」と思う 21％の学生を含む）がこれを選ばなかった自身は、すでに悪口を言うことの非道徳性を否定したものと考えられる。